

京都大学の教育システム 自らの将来を見据え、 自分の学ぶ道を作り上げていくために。

柔軟な教育システム

京都大学の教育は、学部や研究科によって様々な特徴があります。入学者は、10の学部のいずれかの学部所属することになりますが、学部卒業までにどのような教育を体験するかは、各学部の理念と教育方針にもとづいた教育課程によって異なります。また、同じ学部にも属していても、卒業後にどのような進路を希望するかによって、教育課程は異なってくることもあるでしょう。

教育課程のことを「カリキュラム」といいます。これはもともと個人が歩んだ道程を指す言葉です。そこには、与えられた課程を受動的に辿っていくのではなく、自らの将来を見据えながら、自分の学ぶ道を作り上げていくという含意があります。京都大学は、学生が主体的・能動的に学ぼうと思えば、それに対して十分な学習を提供できる柔軟な教育システムを備えています。ここでは、京都大学が提供する学部から大学院までの教育の特徴を説明します。

教養・共通教育

どの学部にも入学した場合も、まず教養・共通科目を受講することになります。教養・共通科目は、全学共通科目ともよばれ、京都大学の全学部の学生が共通して受講する科目群をさします。教養・共通教育は、専門の勉強を始める前に、あるいは専門の勉強と並行しつつ、専門以外の分野も含め文理を問わず広く人類の英知や学問の脈絡を学ぶものです。京都大学での教養・共通教育の目的は、大きく三つに分けられます。

第一には、これまで人類が築き上げ、そして現在も築きつつある学問・研究の諸分野に広く向き合い、その方法論や世界観、探求の姿勢を学ぶことです。これは学問という領域をはるかに超え、人生観や世界観にまで及ぶでしょう。学問を通して、人間的な成長や成熟も期待されていると言ってもよいでしょう。第二には、自分の言葉(言語)で批判的かつ論理的に思考を組み立て、それを表現し、他者に伝える方法を学ぶことです。この場合の言語の学習とは、自国語の高度な運用能力に加えて、あらゆる分野において世界的に活躍するために不可欠な、外国語の習得を含みます。このような批判的思考と言語運用能力を鍛えるためには、他者や異文化を正しく理解し、協調的関係を築きあげようとする姿勢が重要です。学部時代に短い期間であっても、海外へ留学することは貴重な経験となります。京都大学では、英語による教養・共通科目提供や言語の自習環境の整備を積極的に進め、留学を後押ししています。また、教養・共通教育の第三の目的は、専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することです。これは、将来、みなさんが社会や学術研究をリードしていくための基盤となる知識を得るだけでなく、見通しのつかない複雑な状況において、適切に課題を定式化して解決法を見つけようとする姿勢も含まれます。

以上のような教養・共通教育の3つの目的、すなわち教養教育を通して獲得される能力と素養は学術的教養、文化的言語力、基礎的知力と名づけることができます。ただし、教養・共通科目を履修すれば、これらを自動的に獲得できるわけではありません。京都大学の提供する教養・共通科目は、多様な構成となっています。専門教育といってもよいほどの高度な専門性をもっている科目もあれば、基礎的な事項の習得や他分野との関連に重きを置いた科目もあります。また、少人数セミナーでは、研究室やフィールドに出かけて、最先端の知の現場に触れてもらい、将来の研究への意欲を育ててもらいます。いずれにせよ、学生の主体的で能動的な関わりが何よりも重要となります。与えられることを待つのではなく、自分から求め学問の現場に参与していく態度を身につけることが要求されます。すなわち、「生徒」から「学生」へと転換することが、必要なのです。

学部での専門教育

教養・共通科目を履修しつつ、あるいは各学部が定める前期課程の履修を修了後、学部の専門教育に入ります。学部によっては、1年次からすでに、相当な専門教育を受けることもあります。学部の教育課程を修めたと見なされるための学習内容は、各学部の理念と教育方針に基づき決定されています。

専門教育の課程に進んだからといって、教養・共通教育と無縁になるわけではありません。京都大学の教養・共通科目は、専門を勉強し始めてからも必要とあれば、いつでも履修できるようになっています。すなわち、自分の専門の枠を広げ、自分たちの学問的範疇や方法論に関して省察し、さらに創造的にそれを広げていくことができるよう、他の学問分野との対話の可能性を開いています。

学部によって異なりますが、専門教育では学科やコースなど、学部よりさらに専門分化した組織に所属することになります。学部の専門教育は、少人数教育の特徴を備え持つことも多く、教員との関係もさらに密なものとなるでしょう。また、講義で知識を習得するだけでなく、実習や演習といった、専門分野に特に必要とされる技能を習得するための学習形態も増えてきます。いずれの学部でも、卒業前には、各学部での学びの総決算ともいえるべき課題が課せられます。卒業研究をおこなったり卒業論文を作成したりするほか、国家試験の受験が重要な学部もあります。みなさんの希望する学部がどのような教育課程となっているかは、本冊子の各学部のページを参照してください。

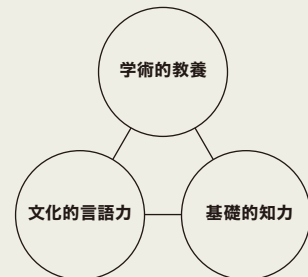
大学院の教育

学部卒業後には、就職する場合もあれば、さらに上位学位(修士号、博士号)の取得をめざして大学院に進学する場合もあります。京都大学では卒業生のうち約60%が大学院に進学します。学部在籍中から、どのような方向に進むかということ、考えて準備しておく必要があります。

まず修士課程では、学部よりも、さらに専門的な学習をすることになります。修士課程には、大きく分けて、研究者養成のための従来型の大学院の課程と、高度な職業的技術をもつ実務家養成のための専門職大学院の課程があります。また、大学院によっては、いったん社会に出た後に再び大学で勉強したい人のために、在職社会人を対象としたコースを設けているところもあります。

大学院には、他大学や他学部の卒業生、勤務経験のある社会人も入学してくるので、学部時代よりも学生の年齢層やキャリアが多様となるでしょう。また、留学生の数も多くなります。このような多彩な人々の中で、みなさんの人間関係はさらに豊かなものとなるでしょう。大学院では、自分でテーマを発見し、学んでいくことが重要となります。良い答えを見つけることだけでなく、良い問いを発することも重要です。修士課程修了時には、研究者養成の課程では修士論文の作成が、専門職大学院では関連専門職の資格試験の受験が総仕上げとなります。修士課程を修了した後、研究者や高度な専門家を目指し、博士課程にまで進学すれば、京都大学の充実した研究環境の恩恵を最大限受けることができるでしょう。そこでは、研究テーマを自ら開拓し研究計画を立て、それにもとづき教員からの指導をうけます。博士課程在籍時には、国際会議での発表や学術雑誌への論文の執筆などが本格化し、一人前の研究者としての活躍が始まるでしょう。また、様々な研究奨励資金に応募し、自らの研究計画を世に問う場面も出てきます。このような研究の成果にもとづいて、博士論文を執筆し審査に合格すると、国際的に通用度の高い学位である博士号を取得することができます。2012年度からは時代の要請に応えるため、専門性と幅広い視野を併せ持ち、社会の広い分野で活躍できるリーダーの養成を目的とした、5年一貫の博士課程教育リーディングプログラムを提供しています。

また、海外の大学との共同学位プログラムもいくつかの分野で開始されています。





京都大学の教養・共通教育を担う

「全学共通科目」 「自由の学風」を尊重しつつ、
真に学生の力を発揮できる教養・共通教育を提供するために。

教養・共通教育の実施体制と特徴

京都大学では、2013年4月に設置した国際高等教育院が教養・共通教育の企画・実施及び運営を総括しています。実施にあたっては、各学部を行う学部教育と併せて、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識及び方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むことを目的とし、教育課程を編成しています。

この教養・共通教育は、主として全学共通科目によって担われています。全学共通科目は、各学部の枠を越えて、原則として全学部の学生を対象とし、以下の8つの群に区分し開講されています。

人文・社会科学科目群

人文・社会科学科目群は、以下の7つの分野に区分し開講されています。

- 哲学・思想
- 歴史・文明
- 芸術・文学・言語
- 教育・心理・社会
- 地域・文化
- 法・政治・経済
- 外国文献研究(平成29年度から開講)

自然科学科目群

自然科学科目群には、数学、統計、物理学、化学、生物学、地学を主な内容とした科目や、これらにまたがる応用的な科目等が多様に開講されています。

これらの中には、主に専門教育の一般的基礎となる科目や、全学生に共通の教養的な内容の科目があります。

外国語科目群

全学共通科目として開講している外国語科目には、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語(外国人留学生用)の10言語があります。外国語教育においては、学術的素養の涵養と学術的言語技能の修得を目指すとともに、異文化理解と外国語運用力の向上にも努めています。

情報学科目群

情報学科目群は、以下の3つの分野を中心に開講されています。

- コンピュータ・リテラシーや情報リテラシーを習得させる情報活用科目
- 情報科学や情報技術の基礎的な概念等を学ぶ情報科学科目
- 高度情報化社会の課題について考察する情報社会科目

健康・スポーツ科目群

健康・スポーツ科目群は、健康科学科目とスポーツ実習科目に区分し開講されています。

キャリア形成科目群

キャリア形成科目群は、以下の6つの分野に区分し開講されています。

- コンプライアンス
- 国際コミュニケーション
- 学芸員課程
- 国際交流
- COCOLO域
- その他キャリア形成

統合科学科目群

統合科学科目群は、以下の5つの分野に区分し開講されています。

- 統合科学
- 環境
- 森里海連環学
- 外国文献研究(平成29年度から開講)
- その他統合科学

中でも、統合科学は、後期5限目に開講される科目で、人類社会の持続的発展と深く関わる主題を取り上げ、文系、理系双方の教員を交えた対話型授業を通して、共時的にも通時的にも多面的な視点からの対象の考察法を習得することを目指しています。考察する主題として以下のものを設けています。

- 生命と社会：生命科学の進歩と人の生活
- 生命と社会：自然と人の関わり
- 閉じた地球で生きる(エネルギー消費と環境)
- 持続可能な地球社会をめざして(エネルギー消費と環境)
- 総合自然災害科学
- エネルギーを取り巻く環境
- 地球環境と人類とのバランス
- 資源循環と環境

少人数教育科目群

少人数教育科目群は、原則として前期5限目に開講される、主に日本語により実施するILASセミナーおよび英語により実施するILAS Seminar-E2からなります。ILASセミナー(ILAS Seminar-E2)は新入生を主たる対象とし、各学部・研究科・研究所・センター等の教員が5～25人程度の少人数のセミナー形式で、様々なテーマの授業を行うものです。

テーマは、医療、言語教育、東洋史、日本古典、政治学、社会学、過疎問題、地震、天文学、文化人類学、豊かさ、エネルギー需給、海洋生物等々、京都大学ならではの豊富なメニューがあり、自分で実際に考え、読み、議論し、書くということがどの科目でも求められています。

※ILASセミナーは、平成27年度まで少人数教育科目(ポケット・ゼミ)として開講されていたものを再編し、平成28年度から開講しています。

「全学共通科目履修の手引き」
掲載ページのQRコード



英語教育の充実と
英語で学ぶ教養・共通教育

国際高等教育院では、学生の英語力をさらに向上させるとともに、教育・研究環境の国際化を進展することが重要であると考えており、平成28年度からは英語によるコミュニケーション力の充実に資する科目編成となっています。特に1年次のライティング・リスニングの授業は、1クラス約20名の少人数で実施し、1年のうち半期はネイティブの教員が担当します。リスニングでは、ICTを活用した自習教材に授業時間以外で取り組むことが必須となっているほか、学術語彙の充実にも力を入れています。

さらに、1年次の4月と12月にはTOEFL ITPの試験を実施し、学生が自らの英語能力の一面を測れるように配慮するだけでなく、国際高等教育院附属国際学術言語教育センター(i-ARRC)では、英語学習のサポートを行います。

また、大学改革の一環として英語で学ぶ教養・共通教育の充実に取り組んでおり、多くの科目で、日本語で学ぶか英語で学ぶかの選択が可能となっています。1年次のライティング・リスニングの授業で培ったリスニング能力を基に、2年次には英語で学ぶ科目で実践することで、英語力が一層向上するよう配慮しています。

全学共通科目

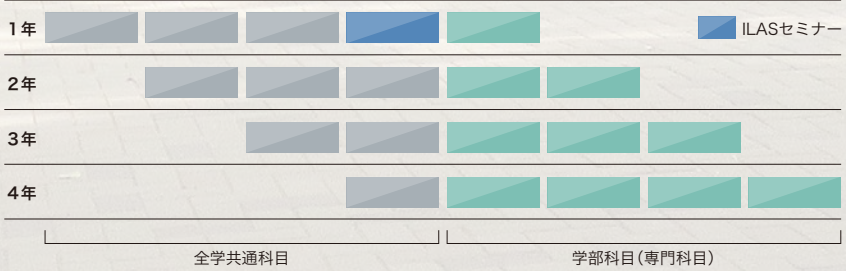
平成28年度は、全学共通科目として762科目を開講しています。

内訳は次のとおりです。

| | |
|---------------|-------|
| 人文・社会科学科目群 | 269科目 |
| 自然科学科目群 | 221科目 |
| 外国語科目群 | 107科目 |
| 情報学科目群 | 51科目 |
| 健康・スポーツ科目群 | 44科目 |
| キャリア形成科目群 | 40科目 |
| 統合科学科目群 | 28科目 |
| 少人数教育科目群 | 2科目 |
| (平成28年4月1日現在) | |

学部科目(専門科目)

学部科目(専門科目)は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。



[全学共通科目について]

詳細は、京都大学国際高等教育院のHPの「教養・共通教育とは」をご覧ください。
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>

[ILASセミナーについて]

各部署の特色あるILASセミナーの内容を、10ページから13ページに紹介しています。



ILASセミナー

1回生からの初めてのゼミ

京都大学ならではの「少数教育」、
教育の原点である人間と人間の触れあいの機会。

京都大学では、特色ある教育を目指して、平成10年度より少数教育科目(ポケット・ゼミ)という授業科目を開設してきました。平成28年度からはそれをILAS(アイラス)セミナーとして再編し、新入生および科目によっては2回生以上の希望者を対象に、全学の教員が実施する授業です。原則として5~25名程度の少数単位で実施され、大学とはどういうところか、学問をするとはどういうことか、最先端の分野でどんなことが行われているかなどについて、教員が直接学生に語りかけ、あるいはさまざまな研究のフィールドに誘う、いわば「京都大学そのものへの入門」の授業として開講されています。

平成28年度は主に新入生を対象に約280科目が開講され、2,200人以上の学生(全新生の約70%)が受講しています。

この科目は本学が全国に先がけて取り組みを進めてきた少数教育の授業法であり、これまで教員、学生の双方から高い評価を得ており、京都大学の将来にとっても重要なものと考えられています。この章では、平成28年度に開講されたILASセミナーの内容の一部を紹介しています。



国際高等教育院

隣りの大国、中国を理解するために

国際高等教育院

若井 茂樹 教授

【専門分野：東洋史学】



大きくなった中国

「中国」この二文字を見たとき、どのような感覚をもちますか。親近感と答える人は少ないでしょう。中国でも同じこと、日本のアニメや漫画が好まれるわりには「日本」のイメージは良くありません。「日中友好」の時代があったことは忘れられたかのようです。その反面、京大のキャンパスでは中国語が飛び交い、「爆買」の大切なお客さんでデパートが混雑するという風景があ

たりまえになりました。つまり両国は引きあうと同時に反撥する、あたかも磁石のような関係です。こうした状況が生じたことにはいくつもの要因がありますが、なかでも中国が大国になったことが重い意味をもっています。

経済について言えば、中国のGDPが日本を追い越して、世界第2位になったのは2010年のことです。それが2014年には日本の経済規模の2倍を超え、その差はどんどん開いています。人材育成の努力には目を見はるばかりです。現在、米国では20万人をこえる中国の留学生が学んでいますし、欧州やアジア諸国にも若い人を送りだしています。

こうした急成長がもたらしたさまざまな問題が中国を悩ましていることも事実です。共産党による一党独裁の政治体制は民主主義と自由という世界の潮流にどう対応していくのか? 都市と農村部との大きな経済格差、開発と環境との矛盾、30年以上続いた「一人っ子」政策がもたらした人口構成の歪みはどうなるのか? 大国中国のかかえる問題は、隣国である日本にとって他人事ではありません。

理解することの難しさ

好きとか嫌いといった感情はだれでも持ちます。しかし、こうした感情を生じさせる原因を突き止める

ことや、自分自身や自分の属する国や地域と中国との関係をたたく知り、感情と利害という2つの要素のからみあいを解きほぐすことは簡単ではありません。客観的な資料を把握することからはじまり、現在をかたちづくってきた歴史をたどり、中国の人びとの自国についての考えや世界の認識のしかた、国のなかにある思想や価値観の多様さや対立といった問題にまで踏み込むことが、対象を理解することなのです。

セミナーという場

写真のなかに教師がいないよ。このことに気がついた方は鋭い。セミナーの主役はみなさんです。もちろん教師もその1人ですが、教えるという立場ではなく、参加者が自発的に学び、思考し、発言するための触媒にしかすぎません。とっつきやすいけれども、内容が濃い書物3冊ほどをテキストにし、それぞれ自分ももっとも関心がある1冊を選んで、グループを作ってもらいます。選んだ書物の担当部分について、概要を紹介し、疑問点や自分の見方について、討論をおこないます。最後に、各自が自由に選んだ課題についてレポートを作成し、報告会をおこなうことで円満終了となります。知のアリーナに参加しませんか?

研究所

先進核融合エネルギーセミナー

エネルギー理工学研究所
増田 開准教授

【専門分野：荷電粒子ビーム物理】



エネルギーを選ぶ

これまでは地域で決められていた電力会社としか契約できなかった電気。2016年4月の電力小売全面自由化以降は、多くの電力会社の中から、値段やサービス、発電方法など、自由に比べて自由に選べるようになりました。何を比べて何を选びますか？

福島第一原子力発電所事故は、我々の安全や安心に対する考え方に大きなインパクトを与えたでしょう。その後の原発停止による化石燃料依存度の急増は、我が国のCO₂排出量とエネルギー自給率にも大きな影響を与えています。我々が家庭の電気を選ぶときに真っ先に考えるであろう経済性に加えて、大前提であ

るべき安全や、資源に乏しい我が国にとって重要な安定供給の視点、もう少しグローバルな視点である環境保全。何を比べて何を选びますか？

セミナーの進め方

「太陽のエネルギー源を地上で再現」「夢のエネルギー」と言われ各国で

研究が進められてきた核融合エネルギー。セミナーの前半では、宇治キャンパスにある最先端の実験装置の見学や、これらを用いた実験などの体験を通じて、核融合エネルギー研究の最先端で何が行われ、何が課題となっているのか、感じ取ってもらいます。

これと並行して、各自が設定したエネルギー問題に関する課題について、各自で文献などを調査してもらいます。このセミナーで先輩達が取り組んだ調査対象は多岐に亘ります。火力、水力、原子力、地熱、太陽光、風力、バイオマス、宇宙太陽光発電、核融合。様々な選択肢の技術の現状を調査して将来に向けた課題を考えたり、再生可能エネルギーの固定価格買取制度に代表されるようなエネルギー政策について

調べて考察したり。セミナーの後半では、各自の調査結果を発表してもらい、議論を通して全員でエネルギー問題全般やその中の核融合エネルギー開発の役割を考えます。

バカな質問、大いに結構

調査課題の設定は基本的に各自の自由です。調査対象とする文献や教科書などが与えられることもなく、自分で探さする必要があります。自主的・自立的に行う調査を通じて、課題を見つけ、背景と共に自分の考えを説明する。背景と課題を上手く説明できなければ、自分の考えの意義を理解してもらうことはできません。初めてのことで戸惑うかもしれませんが、これから皆さんが大学で学問をする上では、このやり方が当たり前です。ILASセミナーは、1回生でこれらの能力を磨くとても良い機会でもあります。

もう一つ、このセミナーで大切にしたいことは、仲間の発表に対して質問をすること。質問は、理解できなかったことを理解しようとする行為ですが、それだけではありません。発表者の気づかなかった視点を与えるなど、次に取り組むべき課題の発見に繋がるような“Good Question!”は、とても大切な「議論への貢献」なのです。バカな質問と思われるのではと怖れることなく、チャレンジしてみてください。

文学部

漢文入門

東洋文化学系

宇佐美 文理教授

【専門分野：中国哲学史】

漢文は日本語

高等学校では、おそらく「国語」というくりのなかで「漢文」を習っておられると思います。それは、漢文が「古文」のひとつの形式であったからです。

つまり、前近代の日本においては、書き言葉として、要するに表現手段のひとつとして、漢文は大きな役割を持っていました。それで高等学校では「国語」の時間に漢文を習うわけです。

加えて、前近代において、日本人が自らの文化に大きな影響を与えた中国文化を理解するための必須の知識として存在したことから、漢文は重要な教養だったのです。

漢文は中国語

つまり、漢文は中国語なのですが、それが国語(=日本語)の一部として存在していた、と言えるでしょう。

しかしやはり漢文は、もとは外国語です。それがなぜ国語として機能するのか。つまり、外国語としての中国語を習っていない高校生が、なぜ漢文を理解できるのか。それは、訓点(返り点や送り仮名)がついているからです。訓点がついていれば、それを書き下し文にすることができます。そうすればもう日本語の「古文」です。

つまり、みなさんが習っている漢文は、中国語が既に日本語に翻訳されたものなのです。

訓点をつけることは翻訳作業

訓点をつけるということは、中国語としての漢文に、解釈を与えて、日本語として読めるようにしたもの、といえるでしょうか。

高等学校の漢文の授業では、基本的に、訓点、さらには著者についての情報、あるいは当該文章の成立事情や語句の典拠などが、すべて示されたうえで「読解」をしているのでは、と思います。しかし、ご存知のようにもともと漢文には訓点はありません。中国で木版などで印刷されたものも、返り点や送り仮名はもちろん、「、」や

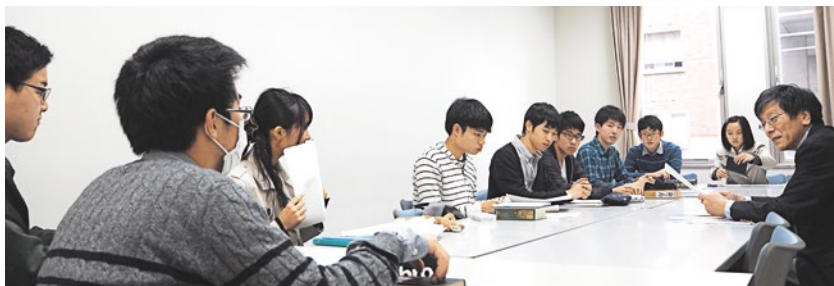
「。」も入っていないもののほうが圧倒的に多数です。

漢文再入門

このゼミでイメージしている「漢文」は、この解釈が入る前の状態の漢文です。簡単に言いますと、いわゆる中国学研究者がどのように漢文を読んでいるのかということをご覧に入れよう、そしてそれを皆さん自身で実践してもらおう、ということです。

「、」も「。」もない漢字だけの文章から解釈するのはもちろん、上にあげた語句の典拠などをどのように調べるかなど、一から学んでいただくことになります。

従って、題目は「漢文入門」となっていますが、ある意味では「漢文再入門」といえるかもしれません。





教育学部

心と脳

教育学研究科
岡野 憲一郎教授
【専門分野：精神医学】



京都大学に赴任して二年になるが、私にとって非常に印象深いのは、本学では学際的な試みが数多く行われているということである。特に心に関して、それを社会現象として、文化との関連で、あるいは臨床の立場から様々に理解しようという試みが多くみられる。そしてそれらの分野が互いに意見を交換し合うという場が、本学には提供されているのだ。しかし同時に思うのは、私たちが普段はいかに心の問題を切り離し、独立させ、単独で扱おうとしているか、ということである。心の問題は、精神内界での現象として取り扱うべきで

あり、そこに脳科学的な観点は必要がない、という見方もまた根強いものがある。特に長く臨床の世界に浸っていたり、哲学や社会学の分野でその考えに没頭していたりした専門家たちにそのような傾向が多い。

脳と心、という新しいテーマ

現代の精神医学や心理学の一つの大きなトピックは、心と脳の関連という問題である。fMRIや光トポグラフィなどのテクノロジーの進歩とともに、私たちは脳の中で何が起きているかをリアルタイムで知ることが出来つつある。無論脳というシステム自体がはるかに複雑なために、それでも分からないことは膨大にあるものの、私たちがこれまで単純に心の問題、精神的な問題として割り切ってきたことに、脳がどのように対応しているかが少しずつ分かっていき、それが心の理解そのものを変えていく可能性があるのである。「自分は心の専門家であり、脳の専門家ではない。だから脳で何が起きていようと、私には関心がない」という立場が徐々に維持できなくなりつつあるのだ。そしていまや脳と心を結び付ける学問は一つの流行となっている。私にとって身近な精神分析理論で言えば、「神経精神分析 neuro-psychoanalysis」という分野が10年前に出来、それまで純粋に心の中の現象として論じられてきた精神分析理論が、脳の動きといかに結びつ

いているかということが議論されてきている。

思えば脳と心というテーマは、一世紀ほど前にS.フロイトが果敢に挑戦した問題であり、その頃あまりに脳に関する知見が限られていたために、フロイトが断念せざるを得なかったという事情がある。ある意味で私たちは新しいテクノロジーや脳に関する知見とともに、フロイトの祈願をかなえようとしているのかもしれない。

若い心と脳に働きかける

当ILASセミナーは、本学の一回生を対象としたものであり、彼らを対象にした「脳と心」の授業には、その点大きなメリットがある。彼らにはまだ十分な知識が備わっていない分、心と脳に関するさまざまな素朴な疑問を抱き、それをぶつけることが出来る。その発想も意外なものも多く、その分教員である私が提案する、少し込み入った考え方についても、それを受け入れる素地が十分にあると感じられる。彼らの質問はまた、既成の概念にとらわれない分だけ大胆であり、私の考えを様々な形で刺激し、時には脅かす。彼らの向ける真摯な質問に答えているうちに、私の側の思考が洗いなおされ、再編されるという体験も多くあるのだ。当セミナーが今後も若い学生と教員の切磋琢磨の場であり続けることを祈る。

経済学部

ピケティ『21世紀の資本』入門

経済学研究科
宇仁 宏幸教授
【専門分野：社会経済学】

経済格差はなぜ拡大しているのか？

1980年代頃から、多くの先進諸国で、所得格差が拡大し続けています。このこと自体はよく知られており、すでに多くの研究が行われていて、その原因やメカニズムをどのようにとらえるかについては多様な見方があります。2013年にフランスで刊行されたピケティの著書『21世紀の資本』は、最近のデータだけでなく、著者が独自に収集した19世紀の税務データなどに基づいて、約200年に及ぶ、フランスやアメリカなどの資産格差と所得格差の長期的な推移を推計しています。この点で、ピケティのこの本は、これまでの研究の水準を画期的に高めました。そして、この長期的なデータを駆使して、どのような原因やメカニズムによって所得格差が変化してきたのか、また今後どのように変化するかについて、ピケティは、かなり体系的に説明しています。さらに、今後の格差拡大をくい止めるために必要な諸政策についても提言しています。

本セミナーの前半では、まず、このピケティの著書を素材にして、19世紀から現在、さらに今後の100年も含む、長期的な資本主義の動きを学ぶとともに、格差を拡大させる諸要因について学びます。この本は、経済学の専門用語についても、その定義

から分かりやすく説明してあり、またバルザックやオースティンの有名な小説などから事例を引用するなどの工夫もあるので、経済学を知らない者でも、面白く読める本です。ただ、近年のグローバル企業の内部で起きている経営手法や利益分配方法の大きな変化については、この本では具体例が乏しいので、わかりやすい素材を教員から提供したいと考えています。

日本の経済格差はどのように変化しているのか？

日本でも、さまざまな格差の拡大や、経済成長の低さは大きな問題となっており、これらの問題を、長期的でグローバルな視野で考えることが求められています。ピケティの本では、日本についての分析はほとんどなされていないので、本セミナーの後半では、参加者自らによる日本の格差や経済成長についての調査と分析を行い、その分析結果

について参加者全員で討論をします。まず、公表されている所得統計データをもとに、ジニ係数など格差を表す指標をどのように計算するのかを、実習形式で学びます。さらに、得られた格差指標の変化を、背後にある社会の変化や諸制度の変化などをふまえて、どのように解釈するのかについて、議論します。経済指標の変化は、複数の諸要因や、複数の因果関係を通じて、変化することが多いという点も、このような調査と分析を通じて、理解できるでしょう。



理学部

氷河時代と気候変遷へのプロムナード

理学研究科地球惑星科学

田上 高広 教授

【専門分野：地球年代学、同位体地球科学、地球変動学】

授業の概要・目的

地球の変動と気候・環境変遷について理解を深めるために、基礎的な文献の輪読を行う。

到達目標

自然科学と地球惑星科学について、基本的な考え方を学ぶとともに、セミナーでのプレゼンテーションと議論の仕方についての基本を身につけることが出来る。

授業計画と内容

教科書をベースにしたプリントを用いて、輪読形式で実施し、参加者各自が必ず一回は発表を行う。そのため、定員を15名程度とする(希望者多数の場合は、抽選等にて決定)。

教科書としては、氷河時代の気候変動を扱ったJ.インブリー「氷河時代の謎をとく」を使用し、過去約50万年間の地球の気候変動と氷河時代について、研究の歴史と地球史的な意義の理解を目指す。特に、ミランコビッチ説を中心に、中世の温暖期とそれに続く小氷期、そして今も続く地球温暖化などについて、最先端の研究事例も交えながら適宜講義を行う。

教科書

用意した講義プリントをはじめに配布する。

授業外学習(予習・復習)等

発表者も含めて、事前に教材に目を通して、疑問点などを整理しておくことが望まれる。また、発表者はセミナーでの議論を踏まえて、発表資料を修正して提出することになる。

参加者へのメッセージ

セミナー発表が初めての人も多いと思うので、特に一回目の発表の前には資料の作成や発表の方法などについて、教員が別途時間を取ってわかりやすく指導します。

我々が住む地球の変動、特に気候・環境の変動について、「氷河時代」をきっかけとして、一緒に考えてみましょう。ほとんどの受講生が、地球科学を初めて学ぶ人々です。きっと、地球の気候・環境のこれまでとこれからについて、新しい視野が開ける



ことでしょう。

セミナーというものに初めて参加する人も多いでしょうから、学問と科学的思考の基本、プレゼンテーションの基本、議論の進め方の基本などから丁寧に指導したいと思います。一緒に学問を楽しみましょう!!

工学部

エンジニアリングセンスを磨く

工学研究科社会基盤工学

白土 博通 教授

【専門分野：橋梁工学、風工学】

エンジニアリングとは工学に携わる者がそれぞれの専門分野について身につけるべきツール(知識、技術)と言えますが、エンジニアリングセンスは、そのツールに裏付けられたものの見方、考え方、事の善しあしを短時間に見抜く「目利き」であり、実は技術者以外でも重要なものです。エンジニアリングセンスは洞察力、推察力、創造性、企画力、判断力、応用力、先進性、バランス感覚、美意識、経済感覚、独創性、探究心、リスク管理能力、説明能力など、どれをとっても簡単に身につくものではありませんが、磨けば技術者としての能力はアップし、個人の生活も豊かになるはずです。エンジニアリングセンスは教えられて身につくものではなく、自ら磨くものです。

ここでは、先人達が開いたエンジニアリングをたどり、その考え方を皆で学ぶことにより、ものの見方・考え方、目利きのセンスアップにトライします。テーマは「飛行機と橋の先人に学ぶ」とし、飛行機が空を飛ぶ原理と、橋と風の戦いを次第に、それぞれの理論の基本的事項、関連技術の発達、著名技術者の人物像などについて、自らが調査し、皆で議論し、その時間を通じてセンス磨きを目指します。初回のイントロの後、4回にわたり「流れを考える」と題して講義形式の関連情報を紹介し、その間参

加学生はテーマに関する文献その他の調査を実施します。各自2回のプレゼンと参加者全員のディスカッションを計7回実施します。続いて「近所の橋を見に行こう」と題して、京都市内から京阪神の代表

的な長大橋、建設工事現場を訪ねます。最終回にはエンジニアリングセンスについて改めて皆で意見交換を行います。



<http://www.jb-honshi.co.jp/>

京都大学特色入試

京都大学は、平成28年度入試から
あなたの学ぶ力と高い志を求めて京都大学特色入試を実施しています。

「高大接続型」特色入試を受験される皆さんへ

京都大学は創立以来、対話を根幹とした自由の学風のもと自主独立と創造の精神を涵養し、多角的な課題の解決に挑戦して、地球社会の調和ある共存に貢献すべく、質の高い高等教育と先端的学術研究を推進してきました。

また、大学を社会や世界に開く窓として位置づけ、有能な学生や若い研究者の能力を高め、それぞれの活躍の場へと送り出す役割が大学全体の共通のミッションであると考えています。

京都大学特色入試は、高校教育から大学教育への接続を図り、社会の各界で積極的に活動できる人材や世界を牽引するグローバルリーダーを育成するため、高校での学修における行動や成果、および個々の学部教育を受けるにふさわしい能力ならびに志を総合的に評価する、京都大学独自の選抜方式です。

昨年度から初めて実施した特色入試も平成29年度入試で2年目を迎えます。より多くの意欲ある受験生が特色入試に挑戦し、京都大学の門戸を叩いてくれるよう、平成29年度特色入試における選抜日程や選考方法の見直しを行うとともに、新たに導入す

る学部・学科も拡大します。さらに、平成30年度入試からは全学部全学科で実施することも決定しています。

研究型総合大学である本学において、一般入試と特色入試で入学した多様な学生が切磋琢磨することによって、新しい考えが生まれ出されていくことを期待しており、分野を超えて異なる能力や発想に出会い、対話を楽しみ協力関係を形作る場を提供していきたいと考えています。そういった出会いや話し合いの場を通じて野生的で賢い学生を育て、彼らが活躍できる世界に向けた窓を開け、学生たちの背中をそっと押し送り出すことが、私たち京都大学の教職員の共通の夢であり目標です。

受験生の皆さんが、この特色入試という新しい扉を開けて、本学に集まってくれることを期待しています。

平成28年6月

京都大学総長 山極 壽一

京都大学特色入試の特徴

京都大学特色入試では、高大接続と個々の学部教育を受ける基礎学力を重視し、

①高等学校での学修における行動と成果の判定

②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定

を行い、①と②の判定を併せて、志願者につき高等学校段階までに育成されている学ぶ力及び個々の学部教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜します。

センター試験
(基礎学力の担保)

①

高等学校での学修における
行動と成果の判定

②

個々の学部におけるカリキュラムや
教育コースへの適合力の判定

高校在学中の顕著な活動歴

(例) 数学オリンピックや国際科学オリンピック出場、各種大会における入賞、教育委員会賞、国際バカロレアディプロマコース・SAT・TOEFL・TOEIC・英検の成績など

学業活動報告書・推薦書

学びの設計書

能力測定考査

口頭試問・面接

- 入試で高得点をとることに特化した外発的動機に基づく受動的な学びの是正
- 能力・意欲・適性・志を多面的・総合的に評価する大学入学選抜
- 幅広い学習に裏付けられた総合力と学ぶ力及び高い志を評価できる新しい入試制度
- 7年間にわたって高等学校と大学とが連携してサポートしていくトータルな人材養成の仕組み

教育学部
(京都高等学校(福岡県)出身)

油田 優衣 さん



前例もなく対策のしようがない。

だからこそ自由に自分をふりかえり、未来を見据えることができました。

京都大学に興味を持ったきっかけは？

SMA*という病気のため小中学校は特別支援学校に通いました。高校からはもっと広い世界を覗きたいと考え普通高校を受験することに。しかし特別支援学校から普通高校へ行くことで様々な相談や手続きが必要になり、やはり壁があることを実感しました。普通高校へ入学したあとも行事参加をどうするかなど、つねに話し合いを重ねることになります。

京都大学には憧れを持っていました。それがはっきりと意志に変わったのは大学受験を考えはじめた高校2年のころ。京都大学の教育理念に触れたときのことです。SMAはそれまでの私にとってマイナスに働くことのほうが多いと感じていました。しかし、この大学なら障害があるという特性や個性、だからこそ得られた経験を活かせるのではと感じました。

同じ年に国立大学を5、6校見て回りました。初めて京都大学を訪問したのは秋のことです。やはり雰囲気よさを感じました。その後もいろいろと調べて自分に合っていると確信し、12月に教育学部への志望を決定しました。エンジンがかかったのはそれからのような気がします。

特色入試を知ったのは年が明けてから。とてつもない試験方法だと思いました。面接は苦手ではありませんでしたが、小論文には自信がありませんでした。まして京大ですから、出題されるテーマの想像もつきませんでした。資料を詳しく見ると、人材育成の例として世界を牽引するグローバルリーダーなどが示されており、どれも私には手が届かないように思えました。しかし求める人物像を読んでみると、私の障害をプラスに変えていけるかもしれないという発想がわいたのです。このとき、一般入試だけでなく特色入試にも挑戦してみようと考えました。

高校時代の思い出

特別支援学校では先生とのかわりが深かったのですが、普通高校では生徒同士のかわりが強く、それが新鮮でした。いちばんの思い出は高校2年生のときに修学旅行でスキーへ行ったことです。私にできるとは思っていませんでしたが障害者スポーツのサポーターがチェアスキーをさせてくれました。実は首も座っておらずグラグラしているのですが、そんな私でも楽しめるスポーツです。スピードは普通のスキー並みだし、車いすでは普段味わえない傾きも体験しました。押ししてもらって練習の必要もありませんから、何度もリフトに乗って滑り降りました。学校の誰よりも楽しんでいたらかもしれません。

普段の学校生活では体力の面で大変なこともたくさんありました。受験勉強にしても、みんなと同じようにするとたちまち体調を崩してしまいます。周りを気にしないようにと聞き聞かせながらマイペースでやりました。学校行事では参加するたびに先生をはじめいろいろな人と話をしなければなりません。でも行事を終えて教室へ戻ってくるのができたときは本当にうれしく思いました。

こうした話し合いを重ねるなかで、いろんな考え方を持ったり柔軟な見方をしたりすることの必要性を感じていたからか、京大の多様性を大切にすることといった校風も志望の決め手となりました。

受験の準備について

教育学部では学びの報告書と学びの設計書を提出することになっており、8月9月はそれに集中しました。書いたのは、私自身が健康なみなさんと同じように学校生活に参加するためにしてきた経験です。それらをいろんな切り口で考えたり、たくさんの人に意見をもらったり、なぜ大学に行きたいのかとか、そもそも自分の経験は何なのか、といったことを2ヵ月考え続けました。すると、何のために何を学ぶのか、明確になったのです。学校行事とも重なって書類づくりは大変でしたが、これで落ちてみぎとそれ以上のものを得られたという確信がどこかにありました。

面接に受かったときは一瞬喜んだものの、これから1ヵ月頑張らなければと思いました。センター試験で80%以上得点できないと、最終合格できないのです。ただ、特色入試で不合格でも、前期は京大に出願し、浪人してでも入学したいと思っていました。京大一本です、というよりも特色入試の準備をはじめたら後戻りでは

きないといった印象です。1分でも時間が惜しい状況でしたが、体調がいちばんなのでよく寝るようにはしていました。体調管理はこれから仕事をしていくうえでも重要な技ですから大切にしていこうと思っています。

そして合格、入学後の生活は？

まずびっくりしたのは教科書を揃えたときのことです。「本を書かれた先生自身に教わるができるなんて!」と興奮しました。そして授業へ出るたびに、いろんな考え方があることを知りました。とても刺激的な毎日を過ごしています。

教育学部は学生数が少なくコミュニティがしやすいこともあり、友だちも少しずつ増えてきました。とくに同じ特色入試で入った5人とは話が尽きません。やはり、受験期に同じ経験をし、同じ緊張感を味わったという想いがあるからだと思います。学びの設計書の見せあいをしたのですが、書類のまとめ方もみんな違うし、内容も切り口も違う。そもそも書式が決まっていたわけではないこともありますが、自由で面白い、それぞれに自分が出ているなと感じました。内容は生徒会や地域活動、また個人的な関心事について研究したものもありました。自分の経験をふりかえり解釈してまとめているところは共通しているものの、それが特色入試につながるかは私を含め誰も思っていなかったようです。

いずれはサークルにも入りたいと思っていますが、まだまだ余裕のない状態です。やはり初めての一人暮らし、24時間サポートしてくださるヘルパーさんとの関係づくりはもちろん家事を学んだり体調管理をしたり、この生活になれることが当面の課題です。

将来の夢と取り組み

私はもともとカウンセリングに関心があって心理学を学ぼうと思いました。ストレス社会といわれるいまの日本では、精神的にまいってしまう時期が誰にでもあると思います。何らかの障害を持つ人はその傾向も強くと感じています。そんな人たちの心の問題をサポートし、社会参加のお手伝いをするのがこの大学で学ぶ目的です。環境はバリアフリーになっても、扉を開けて外へ出るか出ないかは本人次第。そこをケアして社会とつながりを持ち続けられる人を増やしたいと考えています。

自分自身のことでいえば今後は就職などでもいろんな問題にぶち当たると思いますが、新しいステージへ移行するときはつねに話し合いが欠かせません。しかし、私がかこれからの経験のひとつひとつが、あとに続く人の道を切り開くことにもなるかもしれないのです。私自身もこの社会に参加するための努力を続けつつ、心理学の分野から他の方の社会参加のサポートができればと思っています。

学びの設計書にもこうした思いをつづりました。自分の経験を伝えることは大切だと思うので、日常のことをいろいろと記録しておき、発表の機会を通じていつか自分と同じ病気にかかわりを持つみなさんにご覧いただければと考えているところです。

特色入試を目指す受験生に

特色入試は自分自身や経験してきたことをふりかえるよいきっかけになります。受験勉強というより、高校までの自分と将来を結ぶための意義ある時間です。それくらい大きいものを得ることができました。

社会と自分とのつながりとか、自分と大学、大学と社会とのつながりなど、一般入試で入っていたら私も考えずにいたかもしれません。あの設計書は私にとっていつでも立ち返れる場所です。学びの報告書を更新できるように4年間を送ることができたらいいなと考えています。

初めて特色入試の詳細を見たら、出願のハードルが高いとみんな思うはずですが、私も科学オリンピックには出ていないし全国レベルの実績があるわけでもありません。でも前例がなく対策のしようがなかったからこそ、自由に楽しみながら準備ができたと思います。そこに共感いただける方は特色入試に向いているのではないのでしょうか。

*SMA : Spinal Muscular Atrophy 脊髄性筋萎縮症

■募集人員・選抜方法等（平成29年度入試）

| 学部・学科・コース | | | 募集人員 | 選抜方法 | 試験実施方式 | 提出書類 |
|-----------|-----------|---------------------------|--------------------|-----------------------------------|--|--|
| 総合人間学部 | | | 5名 | 書類審査、能力測定考査（文系総合問題、理系総合問題）、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書 |
| 文学部 | | | 10名 | 書類審査、論文試験、「学びの設計書」に関する論述試験、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書 |
| 教育学部 | | | 6名 | 書類審査、課題、口頭試問、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学びの報告書、学びの設計書 |
| 法学部 | | | 20名 | 書類審査、小論文、センター試験 | 後期 | 調査書 |
| 経済学部 | | | 25名 | 書類審査、論文、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書 |
| 理学部 | | | 5名 | 書類審査、数学、口頭試問、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの報告書 |
| 医学部 | 医学科 | | 5名 | 書類審査、小論文、面接 | 推薦 | 調査書、推薦書、学びの設計書、TOEFL-iBT受験者成績書またはIELTS成績証明書、特色事項に関する資料 |
| | 人間健康科学科 | 先端看護科学コース | 20名 | 書類審査、論文、面接、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書 |
| | | 先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座） | 5名 | | | |
| | | 先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座） | 5名 | | | |
| 薬学部 | 薬科学科 | 3名 | 書類審査、論文、面接、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-iBT受験者成績書またはIELTS成績証明書 | |
| 工学部 | 地球工学科 | 3名 | 書類審査、センター試験 | 推薦 | 調査書、推薦書、学びの設計書 | |
| | 電気電子工学科 | 5名 | 書類審査、センター試験 | | | |
| | 情報学科 | 3名 | 書類審査、口頭試問、センター試験 | | | |
| | 工業化学科 | 7名 | 書類審査、センター試験 | | | |
| 農学部 | 資源生物科学科 | 3名 | 書類審査、面接、センター試験 | 学力型 AO | 調査書、学業活動報告書、学びの設計書、TOEFL-iBT、TOEIC、実用英語検定（英検）のうち少なくとも1つの受験者成績書 | |
| | 応用生命科学科 | 3名 | 書類審査、小論文、面接、センター試験 | | | |
| | 地域環境工学科 | 3名 | 書類審査、小論文、面接、センター試験 | | | |
| | 食料・環境経済学科 | 3名 | 書類審査、小論文、センター試験 | | | |
| | 森林科学科 | 3名 | 書類審査、小論文、面接、センター試験 | | | |
| | 食品生物科学科 | 3名 | 書類審査、口頭試問、センター試験 | | | |

注：特色入試（法学部を除く）において最終的な入学手続者が募集人員に満たない場合には、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に加えられます。
 法学部を除き、学部・学科間の併願はできません。
 出願にあたっては、必ず募集要項で確認してください。

■実施結果（平成28年度入試）

（平成28年4月1日現在）

| 学部・学科・専攻 | 募集人員 | 志願者数 | 倍率 | 第1次選考合格者数 | 第2次選考受験者数 | 欠席者数 | 第2次選考合格者数 | 最終選考合格者数 | 辞退者数 | 入学者数 | | |
|-----------|-----------|---------|------|-----------|-----------|------|-----------|----------|------|------|---|---|
| 総合人間学部 | 5 | 29 | 5.8 | 29 | 29 | 0 | — | 5 | 0 | 5 | | |
| 文学部 | 10 | 40 | 4 | 9 | 9 | 0 | — | 7 | 0 | 7 | | |
| 教育学部 | 6 | 25 | 4.2 | 12 | 12 | 0 | 7 | 5 | 0 | 5 | | |
| 法学部（後期日程） | 20 | 324 | 16.2 | 324 | 130 | 194 | — | 22 | 1 | 21 | | |
| 経済学部 | 25 | 77 | 3.1 | 61 | 60 | 1 | — | 25 | 0 | 25 | | |
| 理学部 | 5 | 59 | 11.8 | 59 | 59 | 0 | 5 | 5 | 0 | 5 | | |
| 医学部 | 医学科 | 5 | 5 | 1 | 5 | 5 | 0 | — | 1 | 0 | 1 | |
| | 人間健康科学科 | 看護学専攻 | 10 | 13 | 1.3 | 13 | 13 | 0 | 10 | 1 | 0 | 1 |
| | | 理学療法学専攻 | 3 | 7 | 2.3 | 7 | 6 | 1 | 4 | 2 | 0 | 2 |
| | | 作業療法学専攻 | 3 | 2 | 0.7 | 2 | 2 | 0 | 2 | 2 | 0 | 2 |
| 薬学部 | 薬科学科 | 3 | 2 | 0.7 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | |
| 工学部 | 地球工学科 | 3 | 0 | — | — | — | — | 0 | 0 | 0 | | |
| | 電気電子工学科 | 5 | 12 | 2.4 | — | — | — | 3 | 0 | 3 | | |
| | 情報学科 | 2 | 1 | 0.5 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | | |
| | 工業化学科 | 若干 | 0 | — | — | — | — | 0 | 0 | 0 | | |
| 農学部 | 食料・環境経済学科 | 3 | 20 | 6.7 | 10 | 10 | 0 | — | 3 | 0 | 3 | |
| 計 | 108 | 616 | 5.7 | 534 | 338 | 196 | 31 | 82 | 1 | 81 | | |

特色入試に関する情報は下記サイトで随時発信していますので、こちらをご覧ください。

京都大学特色入試WEBサイト <http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/>